

2018 年度年報発行にあたって

昨年3月、宮原賢次前理事長の後任として、新たに理事長に就任いたしました奥正之でございます。

ご高承の通り、泉屋博古館は、住友家が収集した中国青銅器コレクションと中国絵画、日本絵画、書跡、茶道具、洋画などの美術品寄贈を受け、昭和35年（1960年）に財団法人として設立されました。「泉屋博古館」の名称は、江戸時代の住友の屋号「泉屋」と中国宋の時代に皇帝の命により編纂された青銅器図録「博古図録」から採られています。

現在、当館は国宝2点、重要文化財19点をはじめとする約3,500点の美術品を所蔵し、京都東山の麓、四季折々の自然と史跡に恵まれた鹿ヶ谷に檜林庭園を擁する本館と、平成14年（2002年）開設の、東京六本木のビジネス・エリアにありながら住友家旧麻布別邸の緑豊かな庭園を臨む分館の2館で保存、調査研究、公開の各事業を行っています。

当館は、京都・東京の2つの国際都市に美術館を構えるユニークさを生かし、本分館それぞれ独自の企画展示に加えて、京都で育まれた美を東京に、また東京の館蔵美術品を京都に紹介する活動にも意を注いでおります。2018年には、前年秋に京都で開催し高い評価をいただいた木島櫻谷の特別展「近代動物画の冒険」を春の東京に巡回し多くの皆様に観覧いただきました。また、2018年本分館独自の企画として、京都では、東アジアで脈々と描かれてきた蔬果図の多彩な表現に迫った「フルーツ&ベジタブルズ展」を開催し、また東京では狩野派の正統を受け継ぎ近代日本画の地平を切り拓いた狩野派の絵師達の作品と模索の足跡を展示した「狩野芳崖と四天王」展などを開催いたしました。2018年では、当館開館以来最高の8万人のお客様にお運びいただきました。

さて、当館は、来館者、賛助会員の皆様並びに学術関係の方々の厚いご支援により成り立っておりますが、また、住友グループの文化・社会貢献活動の一翼を担う存在でもあります。来る2019年9月には住友グループにおいて基礎科学、環境、芸術・文化などの分野における各種の助成を行う「住友財団」が、文化財維持・修復事業助成30年を記念し、これまで修復助成を行ってきた文化財の展覧会を、泉屋博古館の京都本館と東京分館、東京国立博物館、九州国立博物館において同時期に開催いたします。本展では、修復で甦った絵画、仏像、歴史文書などの名品の展示を通じて、文化財修復の意義や高度な修復技術も紹介いたします。どうぞご期待いただきたく存じます。

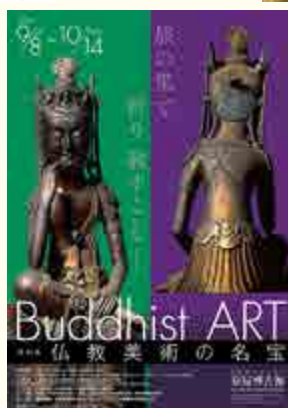
公益財団法人 泉屋博古館
理事長 奥 正 之



公開事業の概要

本館（京都）

展覧会名	期間	入館者数			
		有料	優待	計	1日平均
付属品とたのしむ茶道具 — 千宗旦から松平不昧まで、江戸時代の茶人の書とともに	3/3～5/6 (55日間)	4,786	2,519	7,305	133
絵描きの筆ぐせ、腕くらべ — 住友コレクションの近代日本画	5/26～7/8 (36日間)	2,669	3,013	5,682	158
仏教美術の名宝	9/8～10/14 (31日間)	3,243	3,020	6,263	202
フルーツ＆ベジタブルズ — 東アジア 蔬果図の系譜	11/3～12/9 (32日間)	5,513	5,762	11,275	352
青銅器館 中国青銅器の時代 (企画展開催期間外入館者)	上記企画展と 同じ	50	4	54	—
2018年度入館者計	154日間	53% 16,261	47% 14,318	対前年比 -7,807 30,579	197



分館（東京）

展覧会名	期間	入館者数			
		有料	優待	計	1日平均
木島櫻谷 Part I —近代動物画の冒険	2/24～4/8 (38日間)	17,892	3,518	21,410	563
木島櫻谷 Part II —木島櫻谷の「四季連作屏風」 +近代花鳥図屏風尽し	4/14～5/6 (20日間)	4,855	2,203	7,058	353
うるしの彩り —漆黒と金銀が織りなす美の世界	6/2～7/16 (39日間)	4,217	3,646	7,863	202
狩野芳崖と四天王 —近代日本画、もうひとつの水脈	9/15～10/28 (38日間)	5,989	3,614	9,603	253
神々のやどる器 —中国青銅器の文様	11/17～12/24 (33日間)	2,075	1,764	3,839	116
2018年度入館者計	168日間	70% 35,028	30% 14,745	対前年比 +25,493 49,773	296



入館者本分館合計 有料 51,289名 優待 29,063名 計 80,352名（前年比 +17,688名）

2018 年度公開事業 本館（京都）

中国青銅器の時代

会期：企画展覧会と同時開催

住友コレクションの中核をなす中国商周時代の祭祀用青銅器について、4つの展示室それぞれにテーマを設定し、青銅器の魅力を紹介した。



エントランス

第1展示室

青銅器名品選 — いにしへの造形美 —

当館収蔵青銅器の中から選りすぐりの名品を展示する。商周青銅器の大きな特徴である卓抜した造形の美しさを伝える作品を陳列し、中国古代青銅器の魅力を伝えた。



第1展示室

第2展示室

青銅器の種類 — 豪華な道具たち —

様々な祀りや儀式で用いられた多種多様な器の用途を紹介する展示。神に捧げる酒や食物の器、陰陽を調和する楽器、手を清める器などを展示する。



第2展示室

第3展示室 特集展示

青銅器の文様 — 神秘のデザイン —

(3月3日－5月6日、5月26日－7月8日)
青銅器にあらわされた文様に焦点を当てた展示。後の時代に受け継がれ、中華を代表する文様モチーフとなった龍や鳳凰などを紹介する。



青銅器にあらわされた文字

(9月8日－10月14日、11月3日～12月9日)
青銅器に鑄込まれた文字（金文）に焦点を当てた展示。文章の内容とともに、文字の造形についても復元品を利用して紹介する。



第3展示室（上：文様展 下：文字展）

第4展示室

青銅文化の展開

ー文化が産むもの、文化を産むものー
漢時代から清時代に至る金属工芸を陳列。商周
青銅祭器を模倣しながら発達した銅花器や銅香
炉や銅鏡を紹介する。



第4展示室

館蔵品図録『泉屋博古 青銅鏡』を11月に刊行した。



関連催事

・ワークショップ 4月14日(71名)、15日(70名)

「鑄物体験 ～古印をつくろう」

新郷英弘氏、八木孝弘氏、樋口陽介氏

(芦屋釜の里)

青銅器制作技法になぞらえた鑄造イベント。

幅広い世代が多数参加した。



ワークショップ

・ギャラリートーク：

廣川守 3月24日(3名)、4月28日(10名)

山本亮 6月23日(26名)、9月22日(35名)、

12月1日(43名)



ギャラリートーク(山本)

付属品とたのしむ茶道具
 — 千宗旦から松平不味まで、江戸時代の茶人の書とともに
 会期：3月3日－5月6日

茶道具が受け継がれるときに添えられる仕覆や箱書、極めや書簡などの付属品の数々を茶道具と共に展示。松花堂昭乗の書画帖や、江戸時代の茶人の書跡も紹介。観覧者の鑑賞に供する展覧会小図録を刊行した。



展示風景



展示風景



展示風景

展覧会に併せて、小図録『付属品とたのしむ茶道具』（800部）を刊行した。



『付属品とたのしむ茶道具』

関連催事

・講演会 「茶道具のたのしみ」

3月10日（79名）

熊倉功夫氏（MIHO MUSEUM 館長）

茶道具鑑賞の歴史や楽しみ方を、付属品や銘、さらに取り合わせの工夫などから、多角的に紹介。



講演会（熊倉氏）

・講演会 「茶の湯釜の魅力語る」

4月22日（55名）

新郷英弘氏（芦屋釜の里学芸員）

展示の茶の湯釜を中心に、芦屋、京都、江戸、加賀各地の釜の特色と歴史を紹介。



講演会（新郷氏）

・ワークショップ 「竹の茶室 帰庵」

5月3日（26名）、4日（30名）

移動式茶室で本格的な茶席体験。

復興途上の熊本窯小代焼を使用。

主催：大徳寺大慈院、株式会社山中工務店



ワークショップ「竹の茶室 帰庵」

・ギャラリートーク：

森下愛子 3月31日（32名）

実方葉子 4月21日（55名）

外山潔 5月5日（38名）



ギャラリートーク（森下）



ギャラリートーク（外山）

絵描きの筆ぐせ、腕くらべ — 住友コレクションの近代日本画

会期：5月26日－7月8日

大阪、京都、東京など各画壇で活躍した日本画家たちの作品には、近代の絵描きならではの個性的な筆法と古典に倣った特徴ある筆致が見られる。そんな「筆ぐせ」の魅力を再発見。



展示風景

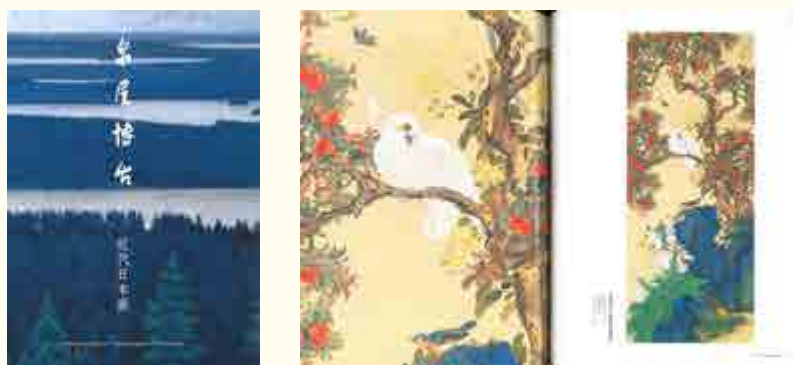


展示風景



展示風景

本展は前年刊行の館蔵近代日本画図録の成果披露でもあった。



『泉屋博古 近代日本画』

関連催事

・ゲストトーク 6月9日 (73名)

大野俊明氏

(日本画家・京都市立芸術大学特任教授)

二条城障壁画模写事業を担当された経

験から近世絵師たちの筆法を詳しく解

説。(担当学芸員との対話形式)



ゲストトーク (大野氏)

・ゲストトーク 6月30日 (79名)

竹内浩一氏 (日本画家)

円山派と岸派の流れをくむ花鳥動物画の

名手として知られる竹内氏ならではの筆

法と近代画家たちの筆ぐせをあぶり出す

名解説。(担当学芸員との対話形式)



ゲストトーク (竹内氏)

・ギャラリートーク：

野地耕一郎 5月26日 (56名)

展覧会テーマの「筆ぐせ」という観点から、時代、地域、画派、個性など複雑な

要素に由来する筆法を、詳細に解説した。

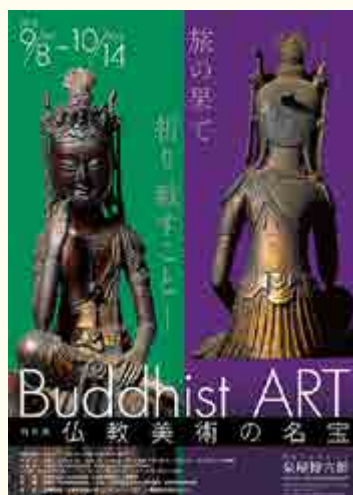


ギャラリートーク (野地)

特別展 仏教美術の名宝

会期：9月8日－10月14日

日本、朝鮮、中国の名宝を紹介。金色に輝く硬質な金銅仏や、森厳な中にも自然のぬくもりを残す木彫仏などの
仏教彫刻とともに、仏教工芸品も併せて展示。
観覧者の鑑賞に供する展覧会小図録を刊行した。



展示風景



展示風景



展示風景

展覧会に併せて、小図録『仏教美術の名宝』（1,300部）を刊行した。



関連催事

- ・講演会 10月7日（82名）
「金銅仏の新研究 蛍光X線分析の成果」
藤岡穰氏（大阪大学教授）
展示品を中心とした金銅仏の蛍光X線分析結果と従来の研究を比較して、金銅仏研究の最前線の成果を紹介した。



講演会（藤岡氏）

- ・特別講座 9月16日（52名）
「旅するほとけ ―ガンダーラ・中国・朝鮮・日本―」（ICOM 京都大会プレイベント）
外山潔



特別講座（外山）

- ・特別講座 9月23日（77名）
「観音さまのまなざし ―菩薩のスーパースター―」 外山潔

- ・ギャラリートーク
外山潔 9月29日（30名）



ギャラリートーク（外山）

- 竹嶋康平 10月13日（61名）



ギャラリートーク（竹嶋）

特別展 フルーツ & ベジタブルズ — 東アジア蔬果図の系譜

会期：11月3日－12月9日

東アジアで描き継がれてきた野菜や果物を主題とした蔬果図の展覧会。それら身近な存在に人々は理想や願い、共感など様々な思いを託し、天地の生んだ造形を愛でてきた。中国から朝鮮、日本、そして中世から近代にわたる蔬果表現の変遷をたどった。



展示風景



展示風景



展示風景

展覧会に併せ、特別展示「蔬果を愛でる一文人の書斎から」（しつらえ：佃一輝一茶庵宗家）を開催した。



特別展示（展示室内）



特別展示（ロビー）

展覧会開催に併せて、図録『フルーツ＆ベジタブルズ ―東アジア蔬果図の系譜』（1,500部）を刊行した。



関連催事

- ・スペシャルトーク 11月10日（57名）

佃一輝氏（一茶庵宗家）

特別展示の招待作家による講演。文人茶で行われる蔬果のしつらえなどの実例を通じ、中華文人にとっての蔬果のイメージやその役割を詳細に解析。



ゲストトーク（佃氏）

- ・体験型講座「伊藤若冲《菜蟲譜》をひらく

—お話と複製鑑賞体験—

11月17日（47名）

末武さとみ氏

（佐野市立吉澤記念美術館学芸員）

主要展示品の1点である10m超の長さの絵巻を、複製を用い本来の方法で鑑賞、その見どころや魅力を所蔵館学芸員からうかがった。



体験型講座（末武氏）

- ・特別講座 11月24日（73名）

「呉春から読み解く蔬果図の世界」

実方葉子

- ・ギャラリートーク

実方葉子 11月3日（40名）

11月23日（92名）



特別講座（実方）

生誕 140 年記念特別展 木島櫻谷 Part I — 近代動物画の冒険

会期：2月24日 - 4月8日

写実的な動物画で知られる木島櫻谷 (1877 ~ 1938)。野生の輝きを持ちつつ、どこかもの言いたげでやさしい眼差しの動物たちを多く描いた。櫻谷が使った絵の具や新出資料を多数まじえて紹介。



第2展示室展示風景



第2展示室展示風景



第2展示室展示風景



第1展示室展示風景

関連催事

・ギャラリートーク

野地耕一郎 3月2日(40名)

3月9日(30名)

3月23日(75名)

・スペシャルトーク 2月24日(80名)

「木島櫻谷の生涯と動物画」 実方葉子

・ゲストトーク 3月17日(200名)

中野嘉之氏(日本画家・多摩美術大学名誉教授)

現代動物画の名手中野先生による筆法を中心にしたトークイベント。



スペシャルトーク(実方)



ゲストトーク(中野氏)

特別展 木島櫻谷 Part II

ー 木島櫻谷の「四季連作屏風」+近代花鳥図屏風尽し

会期: 4月14日 - 5月6日

大阪茶白山にあった住友本邸の大広間を飾った木島櫻谷作「四季連作屏風」に、同時代の花鳥画の名手たちによる屏風も加えて一挙公開。



第2展示室展示風景



第1展示室展示風景

うるしの彩り — 漆黒と金銀が織りなす美の世界

会期：6月2日－7月16日

古くから日本人の生活を豊かに彩ってきた漆工芸は、蒔絵や象嵌、螺鈿など独特の美の世界を創造し、愛玩されてきた。本展では、住友家に伝わった漆工芸品より、茶道具や香道具、おもてなしの器などを紹介。



第2展示室展示風景



第2展示室展示風景



第1展示室展示風景

展覧会に併せて、小図録『うるしの彩り』（700部）を刊行した。



『うるしの彩り』

関連催事

・講演会 6月9日 (49名)

「漆器で愉しむ京の文化」

中尾優衣氏

(東京国立近代美術館 主任研究員)

江戸時代より伝統工芸が根付く京都を中心に、作品紹介を交えながら、地域や漆芸作家の特徴をわかりやすく紹介した。



講演会 (中尾氏)

・ゲストトーク 6月2日 (50名)

室瀬智弥氏

(目白漆芸文化財研究所 代表取締役)

うるしの技法からみる漆芸作品の魅力を紹介。



ゲストトーク (室瀬氏)

・ゲストトーク 6月23日 (40名)

小池富雄氏

(鶴見大学文学部文化財学科教授)

歴史的背景や地域別に見られる漆芸作品の特徴を紹介。



ゲストトーク (小池氏)

・ロビーコンサート 6月16日 (50名)

「尺八が奏でる美の世界」

田嶋謙一氏 (直簫流尺八奏者)

うるしの彩り展に合わせ和の精神に触れる音楽イベント。



ロビーコンサート (田嶋氏)

・ショートギャラリートーク

森下愛子 6月7日 (15名)

6月28日 (40名)

7月5日 (30名)

ショートギャラリートーク (森下)



特別展 狩野芳崖と四天王 — 近代日本画、もうひとつの水脈

会期：9月15日 - 10月28日

狩野芳崖と4人の高弟（岡倉秋水、岡不崩、高屋肖哲、本多天城）を軸に、横山大観や菱田春草らの作品も展示し、芳崖が創った多様な近代日本画の水脈をたどる。

（芸術文化振興基金助成）



第2展示室展示風景



第1展示室展示風景



第2展示室展示風景

展覧会に併せて、図録『狩野芳崖と四天王 近代日本画、もうひとつの水脈』を巡回連携館と共同出版。同図録は美連協カタログ論文賞 優秀カタログ賞を受賞した。



『狩野芳崖と四天王 近代日本画、もうひとつの水脈』（求龍堂発行）

関連催事

- ・ ゲストトーク 9月22日 （45名）
 椎野晃史氏（福井県立美術館学芸員）
 本展共同企画者で、芳崖門下生たちを地道に調査研究された椎野氏による詳しいギャラリートーク。



ゲストトーク（椎野氏）

- ・ ロビーコンサート 10月6日 （46名）
 「バッハ無伴奏チェロ組曲他」
 茂木新緑氏（N響団友、チェリスト）
 地域活性に貢献する秋の恒例音楽イベント参加プログラム。



ロビーコンサート（茂木氏）

- ・ ギャラリートーク
 野地耕一郎
 9月15日（30名）、9月29日（35名）
 10月13日（60名）、10月17日（35名）
 10月20日（90名）、10月24日（30名）



ギャラリートーク（野地）

神々のやどる器 — 中国青銅器の文様

会期：11月17日－12月24日

中国古代青銅器の表面には、当時信仰されていた神々に通じる存在として、精緻な文様があらわされていた。そのうち多くは後世に受け継がれ、中華を代表する文様となった。東アジア文様意匠の原点を紹介。



第2展示室展示風景



第1展示室展示風景

関連催事

- ・トークセッション 12月16日(48名)
「中国青銅器と日本の金工 — 泉屋博古館収蔵の青銅器、茶の湯釜を中心に —」
新郷英弘氏・樋口陽介氏(芦屋釜の里)
廣川守
中国から日本に至る東アジア金属工芸の流れを多角的に紹介した。



トークセッション

- ・ワークショップ 12月17日 (48名)
「鑄物体験－古印をつくろう－」
新郷英弘氏・樋口陽介氏(芦屋釜の里)
青銅器制作技法になぞらえた鑄造イベント。40－50代女性が大半を占めた。



ワークショップ

- ・こども鑑賞会 12月8日 (5組13名)
「かたちをみつけよう」
富田めぐみ氏(NPO法人 赤ちゃんからのアートフрендシップ協会 代表理事)
山本堯
親子参加の対話型鑑賞プログラム。



こども鑑賞会

- ・ギャラリートーク
廣川守 11月17日 (30名)
山本堯 12月8日 (25名)
12月15日 (35名)
12月24日 (40名)
- ・ショートギャラリートーク
森下愛子 11月22日 (8名)
12月6日 (10名)
12月13日 (20名)



ギャラリートーク (廣川)



ギャラリートーク (山本)



ショートギャラリートーク (森下)

2018 年度の主な調査研究事業

1. 泉屋博古館紀要の執筆・編集

泉屋博古館紀要第 34 巻の執筆と編集作業を行った（刊行は 2019 年 1 月）。

本号は、小南一郎論文、廣川守ほかの論文、野地耕一郎論文、山本亮論文の合計 4 編を掲載。

2. 館藏品研究

・「編鐘の復元研究」（廣川）

館蔵編鐘の考古学的、科学的分析を行い、編鐘復元を試みる。前年度に取得したシリコン型から鋳型を作成し、鋳造を実施し湯口及びアガリ位置を検証した（芦屋釜の里研究員等との共同調査、日本学術振興会科研費 JP17K03230 による研究）。

・「館蔵寛永通宝の蛍光 X 線分析調査」（廣川）

館蔵寛永通宝 299 点の蛍光 X 線分析（2010 ～ 2012 実施）データを整理し、寛永通宝に含まれる微量成分について、同時期の銅製錬関連製品の性状と比較しながら、原材料の特性について考察した。その成果を泉屋博古館紀要第 34 巻に執筆した。

・「木島櫻谷の調査研究」（実方）

櫻谷文庫所蔵資料のうち、前年に引き続き櫻谷宛書簡（封書）の整理を進めた。また櫻谷子孫関係先の資料調査を行い、不明点の多かった大正期以降の動向を知る手がかりを得た。

・「近代染織史の基礎資料研究」（森下）

館蔵の染織作品を基本資料として、近代の染織品における様式変遷ならびに技法を比較した。東京文化財研究所無形文化遺産部研究員と共同研究を行った。

「ゆかた 浴衣 YUKATA」展（巡回展：2019 年分館、2020 年本館開催展）にて長板中形の制作工程映像を公開予定。

・「泉屋博古館分館所蔵 菊池容斎筆「桜図」の研究」（野地）

近年当館所蔵となった菊池容斎筆「桜図」について、制作経緯や伝来を検証した。その成果を泉屋博古館紀要第 34 巻に執筆した。

3. 住友関連研究

- ・「美術品収集経緯研究」(学芸員全員)

継続実施している明治大正期住友家美術品収集経緯の研究について、大正期の購入資料の検討と1922年(大正11年)までのデータベース化を進めた。

4. その他の研究

- ・「中国初期王朝時代の政治と文化」(小南)

中国初期王朝時代(二里頭文化から秦漢帝国の成立までの時期)の文化について、主として出土文物を資料にして、その特質を検討し、その成果の一部を泉屋博古館紀要第34巻の「秦の祀天儀礼上」論文にまとめた。

- ・「中国近世の文芸と民衆信仰」(小南)

中国近世の民衆文芸を通して、庶民的な信仰と生活倫理のありかたを探求し、その成果の一部を「目連救母の物語り1」にまとめ、科研費報告論文として出版した。

- ・「春秋時代青銅器の生産と流通」(山本)

春秋時代青銅器の生産と流通の実態を解明するために、出土鑄型資料を中心とした考古学的分析を行い、さらに銘文の検討を併せて行うことで、青銅器流通の背後にある社会関係とその時代的特質に関して考察を行った。その成果を泉屋博古館紀要第34巻に執筆した。

5. 連携調査研究

- ・中国内蒙古金属器の蛍光X線分析調査(廣川)

小田木治太郎天理大学文学部准教授を研究代表者とする内蒙古中南部金属器調査に参加し、蛍光X線分析を実施した。

- ・泉屋博古館所蔵中国商周青銅器の高精度三次元デジタル計測調査(廣川・山本)

三船温尚富山大学芸術学部教授を研究代表者とする金属器計測調査の一環として、当館所蔵夔仲鼓などの商周青銅器の三次元デジタル調査を実施し、詳細な外形及び内側の形状データを取得した。

2018 年度の美術品修復

1. 畑仙齡「大塔彩色之図」

住友春翠ゆかりの日本画作品として、表面のシミ及び折れ、表具等の修復と、桐箱の修理を実施した。修復費用 35 万円。



2018 年度外部機関協力・広報

1. 職員による外部講演

- ・野地耕一郎「京都の日本画家！木島櫻谷」
1月29日、2月26日、3月12日 江東区古石場文化センター講座
- ・実方葉子「日本画家木島櫻谷を知っていますか～精緻なる動物画の世界～」
4月28日 NHK文化センター大阪総支社講演
- ・廣川守「中国古代青銅器文化と酒器」
5月13日 静嘉堂文庫美術館「酒器の美に酔う」展関連講演
- ・廣川守「中国古代の青銅器について－文様と銘文を中心に－」
7月9日 奈良国立博物館解説ボランティア対象講演
- ・実方葉子「企画展立案：事例研究 館蔵コレクションを活かす展覧会」
7月30日 北海道大学 学芸員リカレント教育プログラム講義
- ・野地耕一郎「明治絵画に求められたもの－容斎から清輝まで－」
8月18日 静嘉堂文庫美術館「明治からの贈り物」展関連講演
- ・山本亮 「殷周青銅器の紋様」
8月22日 東京学芸大学公開講座
- ・廣川守「住友コレクション中国青銅器について」
9月15日 あかがねミュージアム「日暮別邸移築記念特別企画展 至宝の中国古銅器 ～別子銅山ゆかりの住友コレクション～」展記念講演
- ・野地耕一郎「窓と帽子－東山魁夷を読み解く」
9月18日、11月10日 日本経済新聞社主催「生誕 110 年 東山魁夷」展（京都国立近代美術館・国立新美術館）関連講演
- ・野地耕一郎 ギャラリートークセッション
9月23日 加島美術主催「SEITEI リターンズ !! 渡邊省亭」展
- ・森下愛子「波山と住友コレクション」
10月13日 板谷波山記念館「ふるさとへの贈り物」展関連講演
- ・外山潔「釈迦と弥勒の美術－ガンダーラから日本へ－」
10月27日 大津歴史博物館れきはく講演会
- ・野地耕一郎「椿絵名画展 つばき咲く－光琳、大観、夢二など－」スペシャルトーク
11月3日 高岡市美術館
- ・実方葉子「『フルーツ＆ベジタブルズ 東アジア蔬果図の系譜』のみどころ」
11月8日 NHK文化センター大阪総支社講演
- ・山本亮「神々のやどる器－住友コレクションの中国青銅器」
11月17日 港区立三田図書館 港区ミュージアムセミナー

2. 外部機関への協力

- ・大学への出講
野地耕一郎「博物館実習（美術史）」「日本美術史研究Ⅲ AB」「日本美術史特殊研究Ⅲ AB」

成城大学 2018 年 4 月～2019 年 3 月
外山 潔 龍谷大学博物館実習特別講義 12 月 22 日

3. 新聞、テレビ等を通じての広報活動

京都青銅器関連

2 月 16 日 日本テレビ系列「超問クイズ！真実か？ウソか？」

京都「絵描きの筆ぐせ」展（主催京都新聞）

4 月 26 日 京都新聞朝刊社告、5 月 18 日 同夕刊社告

5 月 25 日 京都新聞特集紙面（全 10 段カラー）

5 月 25 日 京都新聞タブロイド版メイン記事、5 月 26 日 同開幕記事（半 4 段）

6 月 5 日・14 日 京都新聞広告（半 5 段）、6 月 8 日 同ソフィア（半 4 段）

6 月 30 日 京都新聞ミュージアム（3 段 3/2）

京都「仏教美術の名宝」展（主催京都新聞、日経新聞）

8 月 12 日 京都新聞朝刊社告、9 月 1 日 同夕刊社告

9 月 3 日 日経新聞社告、9 月 7 日 京都新聞特集紙面（全 10 段カラー）

9 月 17 日 日経新聞アートライフ欄

9 月 19 日・10 月 4 日 京都新聞広告（半 5 段）

京都「フルーツ & ベジタブルズ」展（主催毎日新聞、京都新聞）

9 月 29 日 毎日新聞インフォメーション記事、10 月 3 日 京都新聞朝刊社告

10 月 26 日 京都新聞夕刊社告、11 月 1 日毎日新聞夕刊特集紙面（全 10 段カラー）

11 月 2 日 京都新聞特集紙面（全 10 段カラー）

11 月 10 日 毎日新聞ふれ愛インフォメーション

11 月 11 日 NHK日曜美術館アートシーン

11 月 14 日・29 日 京都新聞広告（半 5 段）

11 月 14 日 ラジオ大阪「青木かずおの昼までええやん」

12 月 1 日 BS-TBS「天才絵師・伊藤若冲 世紀の傑作はこうして生まれた」

東京「木島櫻谷 Part I」展

2 月 27 日 朝日新聞夕刊広告（半 5 段）、「気になる一品」

3 月 11 日 NHK E テレビ日曜美術館「孤高の画家 木島櫻谷」アンコール放送

3 月 11 日・12 日 KBS 京都・BS11（再放送（KBS 京都）3/25）「京都浪漫 # 24 100 年忘れられ
た名画が甦る～木島櫻谷の世界～」

東京「うるしの彩り」展（主催毎日新聞）

5 月 19 日 毎日新聞社告、5 月 30 日 同社告

6 月 1 日 毎日新聞朝刊広告（半 5 段）、6 月 12 日 朝日新聞夕刊広告（半 5 段）

6 月 15 日 毎日新聞「出かけてみませんか」

6 月 25 日 毎日新聞夕刊（全 5 段カラー）

東京 板谷波山《葆光彩磁珍果文花瓶》関連

8 月 14 日 テレビ東京「開運！なんでも鑑定団」

東京「狩野芳崖と四天王」展

9 月 18 日 朝日新聞夕刊広告（半 5 段）

10 月 8 日～15 日 J:COM 港新宿広報番組「港区広報トピックス」

10月11日 東京新聞広告
京都・東京 2019 年度展覧会
10月23日 都内4美術館合同記者発表会
東京「神々のやどる器」展
11月13日 朝日新聞夕刊広告(Museum Guide 枠)
12月4日 朝日新聞「美の履歴書」(半面)
12月21日 BS-TBS「報道1930」内「1930文化情報部」

4. SNSを活用した広報活動

京都 フェイスブック投稿(展覧会・作品紹介等)94回
ツイッター(10月開設・展覧会紹介等)97回
東京 フェイスブック投稿(展覧会・作品紹介等)175回
ツイッター(4月開設・展覧会紹介等)233回
ブロガー内覧会開催(ウインダム主催)「木島櫻谷」展:2月23日(参加59名)、「うるしの彩り」
展:6月1日(参加62名)、「狩野芳崖と四天王」展:9月13日(参加51名)、「神々の
やどる器」展:11月16日(参加42名)

2018 年度施設工事

・本館第2収蔵庫空調設備更新

設置後32年、修繕後10年が経過による老朽化、及び保存環境向上のため24時間運転を可能とするため、空調設備を更新した。工事費774万円。

・分館トイレ加圧給水ポンプ更新

トイレ複数利用時にポンプ能力が不足すること、及び設置後15年が経過し老朽化が進んでいること、の2点から、能力増強を兼ねた設備更新を行った。工事費234万円。

2018 年度評価委員会

当館では展示、研究、保存などの事業について、その実績・内容、今後の計画などに対し客観的評価を得て、活動水準の高度化を図るため、外部有識者を中心とした評価委員会を定期的に開催している。2018年度は以下の委員会を開催した。

3月16日 住友会館(東京) 評価委員6名、学芸員5名出席。

泉屋博古館紀要第33巻学芸員執筆論文の評価

12月5日 泉屋博古館(京都) 評価委員3名、学芸員4名出席

2018年度上半期開催の展覧会評価

泉屋博古館設立の目的

当館は、住友家の収集にかかる古代青銅器を中心とする国宝、重要文化財等の美術工芸品および当館が取得した文化財の保存および公開、並びにこれらに関する調査研究を行い、学術研究の発展を図り、もって我が国の文化の向上と文化財の保護に寄与することを目的としております。

泉屋博古館の事業

当館は、上記目的を達成するため、次の事業を行います。

- (1) 美術工芸品の収集、保存および公開
- (2) 美術工芸品に関する調査研究、紀要、解説書、図録などの発行
- (3) 美術工芸品に関する研究会、講演会等の開催
- (4) 美術館の設置、運営
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

賛 助 会 員 2018 年 12 月 31 日現在

特別法人会員

住友化学株式会社	住友重機械工業株式会社
株式会社三井住友銀行	新日鐵住金株式会社
住友金属鉱山株式会社	住友商事株式会社
三井住友信託銀行株式会社	住友生命保険相互会社
株式会社住友倉庫	住友電気工業株式会社
三井住友海上火災保険株式会社	日本板硝子株式会社
日本電気株式会社	住友不動産株式会社
住友大阪セメント株式会社	三井住友建設株式会社
住友ベークライト株式会社	住友林業株式会社
住友ゴム工業株式会社	大日本住友製薬株式会社

法人会員 (50 音順)

株式会社関西 C I C 研究所	ワケンホールディングス株式会社
------------------	-----------------

個人会員 (敬称略、50 音順)

熊澤保夫	古賀邦正	酒木良介	関野由弘	谷水雄三
服部重彦	藤見知愛子	武藤治太	村瀬 寛	山田康之

役員・評議員

2018年12月31日現在

理事長	奥 正 之	三井住友フィナンシャルグループ名誉顧問
常務理事	屋 代 榮	住友成泉社長
理 事	岡 村 秀 典	京都大学教授
	小野寺 研一	住友不動産副会長
	家 守 伸 正	住友金属鉱山相談役
	熊 倉 功 夫	MIHO MUSEUM 館長
	小 南 一 郎	泉屋博古館名誉館長、京都大学名誉教授
	酒 井 忠 康	世田谷美術館長
	佐々木 丞平	京都国立博物館長
	佐 藤 義 雄	住友生命保険会長
	住友 吉左衛門	住友財団理事長
	中 村 邦 晴	住友商事会長
	常 陰 均	三井住友信託銀行会長
	十 倉 雅 和	住友化学社長
	西 上 実	京都国立博物館名誉館員
	松 本 正 義	住友電気工業会長
	矢 野 薫	日本電気特別顧問
監 事	礒野 與志嗣	税理士
	秦 喜 秋	三井住友海上火災保険シニアアドバイザー
	中 村 吉 伸	住友重機械工業会長
評 議 員	新 井 英 雄	三井住友建設社長
	住 友 信 夫	
	関 根 福 一	住友大阪セメント社長
	多 田 正 世	大日本住友製薬会長
	出 川 哲 朗	大阪市立東洋陶磁美術館長
	友 野 宏	新日鐵住金相談役
	林 茂	住友ベークライト会長
	三 野 哲 治	住友ゴム工業相談役
	森 重 樹	日本板硝子社長
	馬 淵 明 子	国立西洋美術館長
	矢 野 龍	住友林業会長

法人概要

貸借対照表

2018 年 12 月 31 日現在

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	119,377,803	100,884,754	18,493,049
棚卸資産	4,483,884	2,743,254	1,740,630
仮払金	150,000	150,000	0
前払金	26,130	26,130	0
前払費用	5,415,656	847,733	4,567,923
立替金	38,609	3,714,833	-3,676,224
未収金	334,852	264,202	70,650
流動資産合計	129,826,934	108,630,906	21,196,028
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
美術品	6,410,302,120	6,410,302,120	0
土地	2,882,732,000	2,882,732,000	0
建物	706,041,437	744,595,423	-38,553,986
構築物等	2,313,877	2,730,732	-416,855
投資有価証券	3,259,142,205	3,466,570,268	-207,428,063
定期預金	300,000,000	100,000,000	200,000,000
基本財産合計	13,560,531,639	13,606,930,543	-46,398,904
(2) 特定資産			
営繕積立資産	7,513,199	7,513,199	0
基本財産購入積立資産	14,773,807	14,773,807	0
保存公開事業積立資産	3,002,700	3,002,700	0
調査研究事業積立資産	20,431,000	20,431,000	0
本館改良工事資金	0	11,268,480	-11,268,480
特定資産合計	45,720,706	56,989,186	-11,268,480
(3) その他固定資産			
建物	14,839,253	6,247,452	8,591,801
その他	27,337,453	32,457,750	-5,120,297
投資有価証券	1,121,010	1,127,890	-6,880
長期前払費用	46,175	619,004	-572,829
建設仮勘定	6,804,000	0	6,804,000
その他固定資産合計	50,147,891	40,452,096	9,695,795
固定資産合計	13,656,400,236	13,704,371,825	-47,971,589
資産合計	13,786,227,170	13,813,002,731	-26,775,561
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	8,698,430	19,583,605	-10,885,175
預り金	15,777,770	915,734	14,862,036
流動負債合計	24,476,200	20,499,339	3,976,861
2. 固定負債			
その他固定負債	24,069,343	23,595,082	474,261
固定負債合計	24,069,343	23,595,082	474,261
負債合計	48,545,543	44,094,421	4,451,122
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
基本財産 美術品	6,409,708,120	6,409,708,120	0
基本財産 土地	2,882,732,000	2,882,732,000	0
基本財産 建物	632,407,016	667,664,695	-35,257,679
基本財産 構築物等	2,313,877	2,730,732	-416,855
寄付金	3,953,684	5,285,436	-1,331,752
指定正味財産合計	(9,931,114,697)	(9,968,120,983)	(-37,006,286)
(うち基本財産への充当額)	9,927,161,013	9,962,835,547	-35,674,534
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	(3,806,566,930)	(3,800,787,327)	(5,779,603)
(うち基本財産への充当額)	(3,633,370,626)	(3,644,094,996)	(-10,724,370)
(うち特定資産への充当額)	45,720,706	56,989,186	-11,268,480
正味財産合計	13,737,681,627	13,768,908,310	-31,226,683
負債及び正味財産合計	13,786,227,170	13,813,002,731	-26,775,561

法人概要

正味財産増減計算書

2018年1月1日から2018年12月31日まで

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	67,662,173	66,668,994	993,179
特定資産運用益	4,574	2,836	1,738
入場料	37,123,902	28,633,317	8,490,585
事業収益	23,285,557	15,425,255	7,860,302
受取補助金等	2,361,000	9,015,000	-6,654,000
受取寄付金	120,955,000	127,846,000	-6,891,000
	37,006,286	41,703,910	-4,697,624
雑収益	1,713,688	3,667,379	-1,953,691
経常収益計	290,112,180	292,962,691	-2,850,511
(2) 経常費用			
事業費			
展覧会費	48,414,418	33,450,370	14,964,048
美術品修繕費	758,854	3,021,200	-2,262,346
調査研究費	4,148,711	8,276,242	-4,127,531
広告宣伝費	6,209,555	5,228,159	981,396
給与費	71,785,785	65,487,165	6,298,620
雑給	4,334,470	4,203,930	130,540
旅費交通費	7,446,784	5,695,869	1,750,915
通信運搬費	1,359,751	1,243,529	116,222
光熱水道費	8,204,790	8,325,745	-120,955
消耗品費	3,794,487	3,832,490	-38,003
保守費	17,748,967	19,080,969	-1,332,002
雑費	2,063,053	969,010	1,094,043
基本財産減価償却費	37,338,839	41,897,633	-4,558,794
その他固定資産減価償却費	8,589,504	9,987,850	-1,398,346
事業費計	222,197,968	210,700,161	11,497,807
管理費			
給与費	36,268,734	33,106,763	3,161,971
旅費交通費	1,799,780	1,693,326	106,454
通信運搬費	1,554,903	1,358,486	196,417
光熱水道費	4,114,717	4,175,375	-60,658
消耗品費	1,168,301	1,871,278	-702,977
保守費	8,044,211	8,576,586	-532,375
雑費	4,900,154	8,679,144	-3,778,990
基本財産減価償却費	1,285,931	1,448,575	-162,644
その他固定資産減価償却費	629,876	599,749	30,127
管理費計	59,766,607	61,509,282	-1,742,675
経常費用計	281,964,575	272,209,443	9,755,132
評価損益等調整前当期経常増減額	8,147,605	20,753,248	-12,605,643
基本財産評価損益等	-2,361,120	-4,723,830	2,362,710
投資有価証券評価損益等	-6,880	-8,170	1,290
評価損益等計	-2,368,000	-4,732,000	2,364,000
当期経常増減額	5,779,605	16,021,248	-10,241,643
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	0	16,497,707	-16,497,707
その他固定資産除却損	2	8,347	-8,345
経常外費用計	2	16,506,054	-16,506,052
当期経常外増減額	-2	-16,506,054	16,506,052
当期一般正味財産増減額	5,779,603	-484,806	6,264,409
一般正味財産期首残高	3,800,787,327	3,801,272,133	-484,806
一般正味財産期末残高	3,806,566,930	3,800,787,327	5,779,603
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	0	635,040	-635,040
一般正味財産への振替額	-37,006,286	-41,703,910	4,697,624
当期指定正味財産増減額	-37,006,286	-41,068,870	4,062,584
指定正味財産期首残高	9,968,120,983	10,009,189,853	-41,068,870
指定正味財産期末残高	9,931,114,697	9,968,120,983	-37,006,286
III 正味財産期末残高	13,737,681,627	13,768,908,310	-31,226,683

泉屋博古館の紹介

第2回 仏教美術

泉屋博古館では、日本、中国、西洋の多種多様な美術品を収蔵しています。前回は、収蔵品から青銅器と鏡鑑をご紹介しましたが、今回は収蔵品紹介の2回目として仏教美術をとりあげます。

泉屋博古館所蔵の仏教美術作品は、ガンダーラ、中国、朝鮮、日本の仏像、仏具、絵画と多岐にわたっていますが、中でも住友家十五代当主住友春翠が、主に大正年間に集めた中国の金銅仏や仏具は比較的、数量がまとまっており、また名品も揃っています。前回、ご紹介したように春翠は、殷周青銅器と鏡鑑のコレクターとして世界的に名が知られていますが、春翠の興味はそれだけにとどまらず、仏像・仏具も含む東アジアの金工全般に広がっていったようです。住友家が大正期に発行した青銅器図録『泉屋清賞』には、青銅器とともに金銅仏をはじめとする仏教美術作品も掲載されており、春翠が仏教美術を金属工芸美術の一環として蒐集したことを物語っています。こうした視点で仏教美術を集めたコレクターは、世界的に見ても数少なく、この点に春翠の仏教美術コレクションの個性が見られます。その中でも代表的な作品としてあげられるのは、国宝に指定されている日本平安時代の鏡像と重要文化財に指定されている中国北魏太和銘の金銅仏ですが、それ以外にも中国の仏舍利を納めた舍利容器や僧侶の道具である錫杖の優作など、類例が少ない貴重な作品が多く含まれています。

この他の仏教美術では朝鮮高麗時代の仏画「水月観音像」（重要文化財）、鎌倉から南北朝時代にかけての日本の仏画、平安から鎌倉時代にかけての木彫仏、さらには前名誉館長の故樋口隆康氏から寄贈を受けたガンダーラの石彫などもあります。

当館の仏教美術作品は、住友本家だけでなく、関連する諸家からのご厚意で寄贈されたものも含んでおります。先に述べたように、住友は仏教美術という特定のジャンルにこだわって蒐集した訳ではありませんでしたが、結果として優品が揃うこととなりました。当館の仏教美術作品は、この住友コレクションに、新しく寄贈された作品を加えて、一層、充実したものとなっています。

（外山 潔）

重要文化財 鍍金弥勒仏立像

北魏 太和 22 年 (498)

高 39.8 cm

大型の金銅仏で光背裏の銘文から製作年や尊名、発願者が判る貴重な作品。銘により遠い将来にこの世に降臨した弥勒の姿であることが判ります。西方の影響を受けた薄い衣の表現や肉体表現は見事で、この時期を代表する金銅仏の名品として知られています。



国宝 線刻仏諸尊鏡像

平安時代 (12 世紀)

径 15.1 cm



鏡面に仏諸尊の姿を毛彫りで表現した鏡像です。如来の左右に二菩薩、その下に各々象、獅子にのる普賢、文殊の両菩薩、さらに最下段に不動明王と毘沙門天が表されています。その抑揚ある表現は絵画的で、金属に刻した線とは思えないほどの繊細な感覚が見られます。

重要文化財 木彫阿弥陀如来坐像

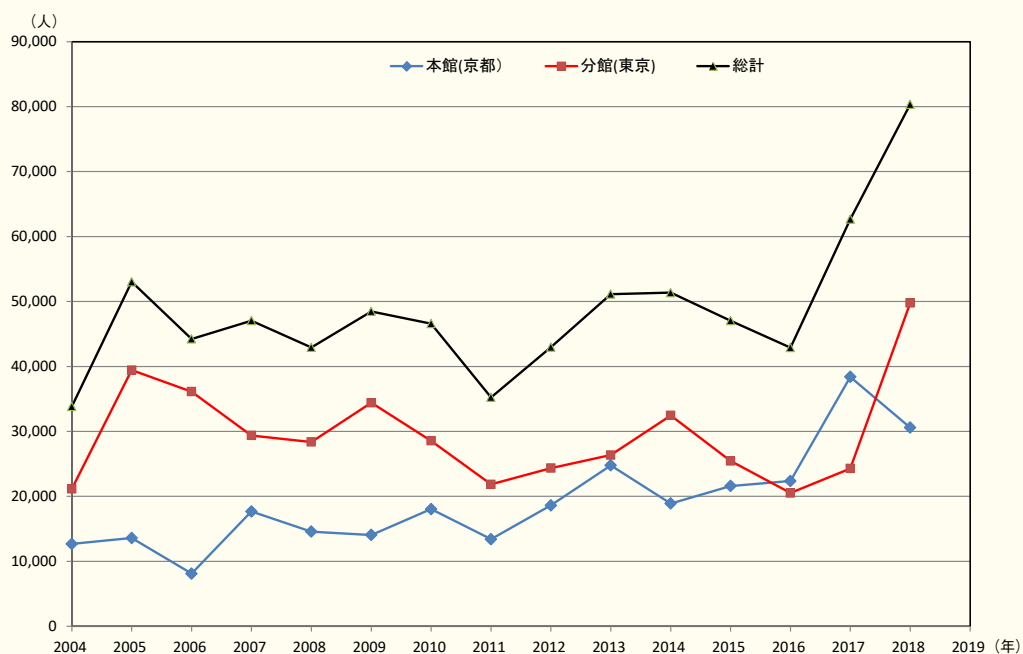
平安・大治 5 年 (1130)

高 103.0 cm

来迎印を結ぶほぼ等身大の阿弥陀坐像。背板の裏面に墨書銘があり、大治 5 年の年紀や願文、そして多数の結縁者の名が認められます。浅く太い衣文表現や臉を深く彫り込んだ面相は力強く、慈悲深さとともに厳肅な雰囲気も併せもつ御像です。



入館者の推移



2019 年展覧会予定

本館（京都）

中国文房具と煎茶 - 清風にふかれて	3月 2日 - 5月 6日
日本の書 - 和歌と詩のかたち	5月 25日 - 6月 30日
住友財団修復助成 30 年記念 文化財よ、永遠に	9月 6日 - 10月 14日
花と鳥の四季 - 住友コレクションの花鳥画（仮）	10月 26日 - 12月 8日

分館（東京）

特別展 明治 150 年記念 華ひらく皇室文化 - 明治宮廷を彩る技と美	3月 16日 - 5月 10日
特別展 ゆかた 浴衣 YUKATA - すずしさのデザイン、いまむかし	5月 28日 - 7月 7日
住友財団修復助成 30 年記念 文化財よ、永遠に	9月 10日 - 10月 27日
金文 - 中国古代の文字	11月 9日 - 12月 20日